

A Survey of Problems and Characteristics of the Keihoku-Utsu District in Ukyo-ku, Kyoto

TAMURA Yuka

The Keihoku-Utsu district of Ukyo-ku in Kyoto is an area rich in historical and cultural significance. The author has continued to conduct fieldwork with students in this area since 2013; based on the results of a survey taken in October, 2015, I analyze the special characteristics of the area and particular problems facing residents of the Utsu district.

Results of questionnaires indicate that there is a need to make improvements by: 1) creating more spaces where diverse stake-holders can be aware of and involved in contributing to the community, 2) decreasing the problems (facing the community) and, 3) improving the system of receiving both people relocating to the area and short term visitors.

With the principle of close collaboration with the community at the core, and drawing on the results of this research to outline guiding principles, we will continue to work toward planning a better future for the Utsu area.

京都市右京区京北宇津地域でのアンケートから見る 地域の特徴と課題

田村 有香
TAMURA Yuka

1. はじめに

京北宇津地域は深い歴史と文化を持つ、おだやかな美しいまちである。日本各地の中山間地域と同様、少子化、高齢化、過疎化という問題を抱えてはいるが、訪問時にはそのような雰囲気を感じず、まちの人たちは明るく親切で、宇津自治会のリーダーシップは健全かつ確実であり、子ども達は元気いっぱいである。

筆者が学生とともに宇津地域でイベントの企画やアクションリサーチを始めたのは2013年春のことである¹。幸いなことに宇津自治会の協力を得ることができ、京都市と大学コンソーシアム京都が提供する大学地域連携創造・支援事業（以後「学まちコラボ」）²にも4年連続採択され、活動の幅を広げつつ、内容も年々充実させてきた。

本論文の目的は、2015年10月に実施したアンケート調査の結果の一部を紹介しつつ、宇津地域の特徴と課題を明らかにすることである。

2. 京北宇津地域とは

京北は2005年に京都市右京区に編入される前は、美山町とともに北桑田郡を構成していた。京北には6つの地域があるが、宇津は南に位置するので気候も穏やかで、京都の五条天神川から国道162号線を利用して車で40～50分と、京都市内各所からも通勤圏内である。

1950年には1,114人が住む地域であったが2000年には543人となり、その50年間の人口減少率は京北6地域で最も高い51.3%であった³。地域にあった宇津小学校は1999年に廃校となり、隣接する細野地域と周山地域の小学校と統合された。2016年7月現在、住民基本台帳による宇津の人口は431人である⁴。

現在の集落の基盤となった地域集団は、稲作を基盤に弥生時代に形成されたと考えられており⁵、旧宇津小学校の校庭整備の際には土器が発見されている。戦国時代には宇津城を居城に

宇津氏が勢力を持ったが、丹波支配を狙っていた織田信長に派遣された明智光秀によって落城し⁶、現在ではその石垣の一部を残すのみとなっている。

かつては鮎漁と北山杉で栄えた地域だが、現在では目立った産業はない。北山杉に関しては後述する。

3. アンケート調査の概要

本アンケートは、宇津自治会役員と筆者とで項目を相談したうえで実施し、配布の際には宇津自治会と筆者連名の協力依頼文を添付した。

配布は各集落の市政協力員によって20歳以上の男女の人数分が全戸配布され、記入後の調査票は各自が郵送で筆者に返送する方法をとった。配布数と回収数、回収率、調査の概要を以下にまとめる。

表1 集落別配布数

集落	配布数
柏原	26
弓楯	40
栃本	61
中地	71
明石	36
粟生谷	44
上浮井	29
下浮井	48
総計	355

表2 回収数と回収率

配布数	355 通
回収数	227 通
有効回収数	227 通
有効回収率	63.9 %

表3 調査概要

調査期間：2015年10月10日～ 10月31日
調査対象：宇津地域在住の20歳 以上の男女全員
調査方法：全数調査（全戸配布）、 郵送回収
調査主体：田村有香（京都精華大 学人文学部）
協力：宇津自治会

4. 回答者の属性

20歳代から80歳以上までの幅広い回答が得られた（図1）。また、20歳以上の男女全員に配布したことにより、女性の回答がほぼ半数に達していることも特筆に値する（図2）。なぜならば、自治会の役員会や地域の寄り合いなどは主に男性が中心に集まり、女性の意見や要望をまとめて聞くことができる機会は多くなく、ここで収集した女性の意見は貴重だと考えられるからである。

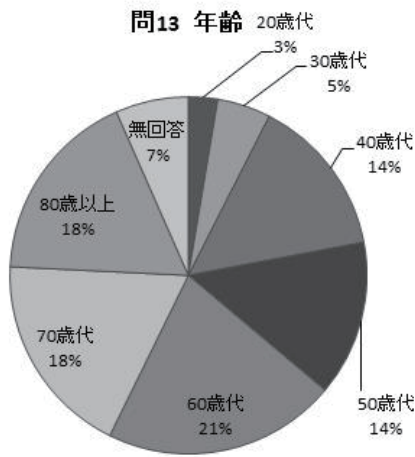


図1 年齢

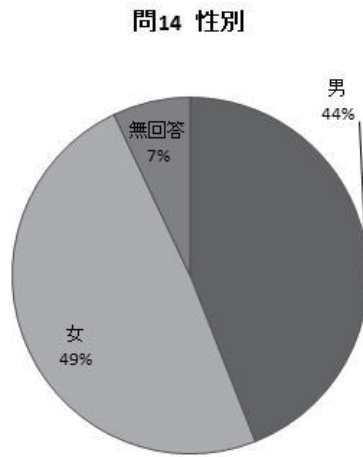


図2 性別

図3に宇津地域の居住歴を示す。回答者のうち31%は宇津地域で生まれてそのまま宇津に住んでいる人である。生まれが宇津地域だが一時転居して戻ってきた人もあわせると、宇津生まれは42%を占める。最も多いのは結婚を機に転入したという回答で、全体の35%を占めていた。宇津地域で生まれてそのまま宇津に住んでいる人のうち8割が男性、結婚を機に転入してきた人のうち8割が女性である。

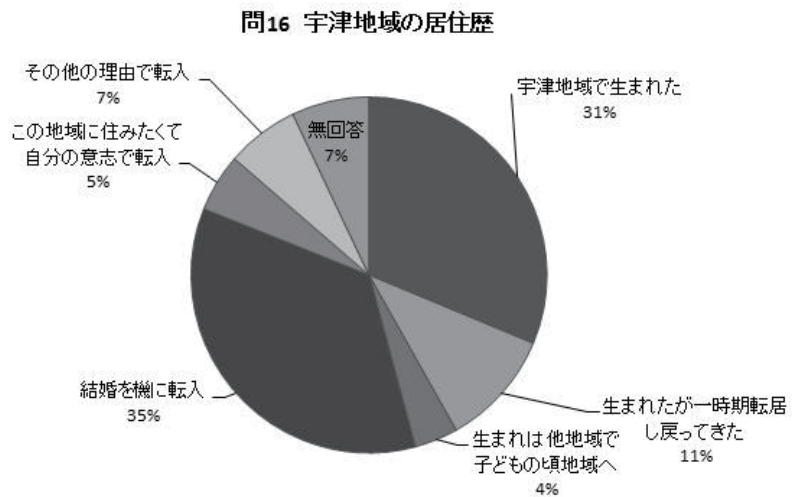


図3 宇津地域の居住歴

5. アンケートから抽出される課題

(1) 多様な主体が地域貢献を実感できる場づくり

宇津地域に対する回答者の考えについて、図4にまとめる。

「大いにそう思う」「まあそう思う」をまとめて「同意」、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」をまとめて「不同意」と記述する。

「同意」について多い順に5つ挙げると、「宇津地域が好き」「非常時に近隣で団結」「自分は宇津地域の人に助けられている」「宇津に住み続けたい」「宇津地域の活性化に関心がある」であった。

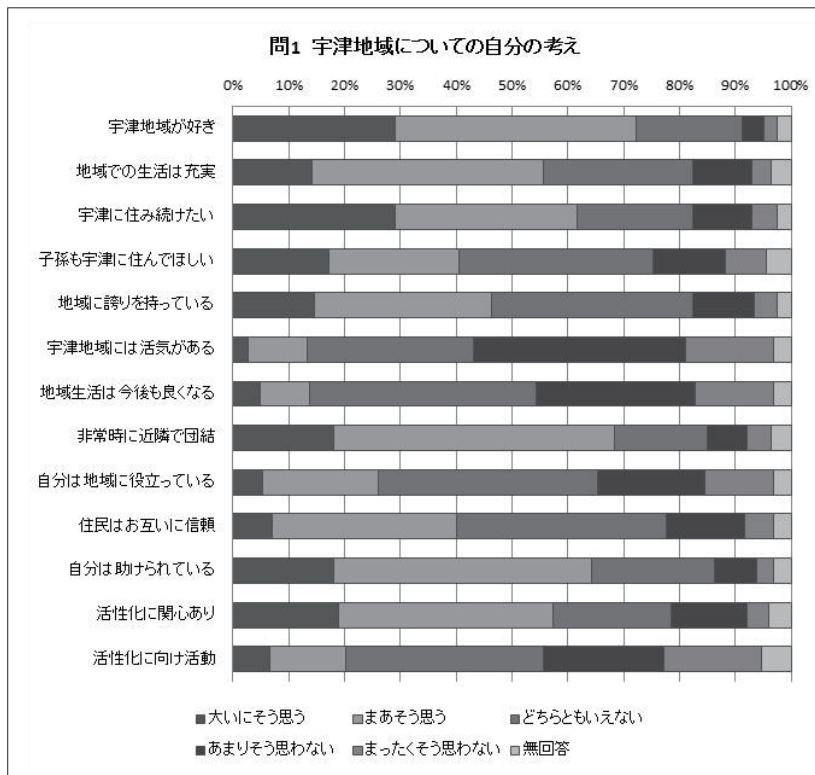


図4 宇津地域に対する自分の考え

一方、「不同意」の多い順に5つ挙げると、「宇津地域には活気がある」「宇津地域の生活は今後も良くなる」「自分は地域の活性化に向けて活動している」「自分は地域に役立っている」「子どもも孫も宇津に住んでほしい」であった。

宇津地域が好きで、自分は宇津に住み続けたいと思いながら、子どもや孫が宇津に住むことには賛成しきれない。地域の活性化に興味がありながら、活性化に向けて自分は行動に移せな

い。非常時には地域で団結できているが、自分は地域に役立っていると思えない。このように、回答者の意識と現実がかい離している現状が読み取れる。

地域に対する愛着はとても深い、その愛着を行動に移せる場が少なく、そのために自分が地域に貢献しているという感覚が持てない、という現状から読み取れる最も大きな課題は、「多様な属性の住民が宇津地域のために貢献できる場づくり」であると考えられる。

(2) 地域の困りごとの軽減

図5は、10年前、現在、10年後の地域の困りごとである。10年前よりも現在の方が困りごとが増え、10年後にはさらに増えているだろうという予測があることが読み取れる。特に、現在の困りごととして多い順に、「公共交通」「医療」「農地管理」「買い物」「後継者問題」である。

図6は、現在の困りごとについて男女別にたずねた結果である。男性の困りごと5つは、「農地管理」「医療」「公共交通」「山地管理」「後継者問題」であり、女性は「公共交通」「買い物」「医療」「農地管理」「就労」である。

「公共交通」を利用して京都の町なかから宇津まで移動するのは現状、かなり困難である。JRバスが京都駅から周山まで運行しており、周山で京北ふるさとバスに乗り換えるのだが、周山までのJRバスが1時間に1本程度、京北ふるさとバスで周山から宇津までの移動に利用できる便は、曜日にもよるが1日に4本程度である。宇津地域にはコンビニエンスストアもスーパーもなく、食料品や日用品を購入するためには周山まで行かなければならないため、公共交通の不便さが女性の「買い物」の困りごとにもつながっている。

「農地管理」は多くの中山間地域で大きな課題になっているが、宇津地域に特徴的なのは、男性の困りごとにも多い「山地管理」である。

京北の地は、かつてブランド力が非常に高かった「北山杉」の産地である。宇津地域の植林率は90%を超え、北山杉の丸太の需要が多かったころは、「役場で働くより山で働いた方が何倍も儲けが多かった」⁷とも言われている。もともと床柱など磨いた丸太をそのまま利用する用途が多かったため、床の間の需要が減ったことにより木材需要が激減し、2015年までに宇津地域内の製材所は全て廃業した。現在でも宇津地域の山で杉の間伐や伐採作業は行われているが、山地管理の困難さから放棄林が増えていくのではないかという見通しも地域にある⁸。北山杉に関しては宇津地域だけの話ではなく、京北全体的にその用途拡大が課題となっている。

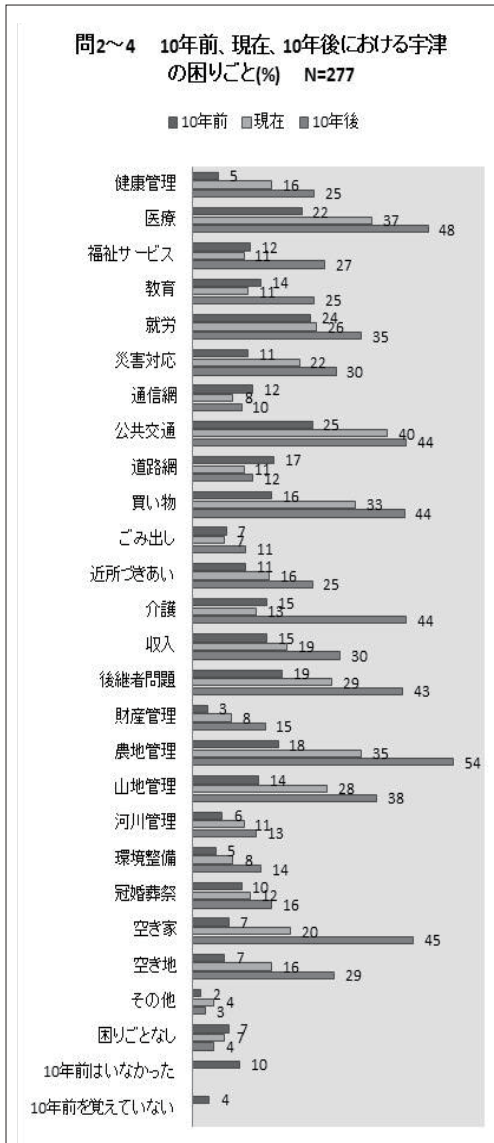


図5 地域の困りごと
(10年前、現在、10年後)

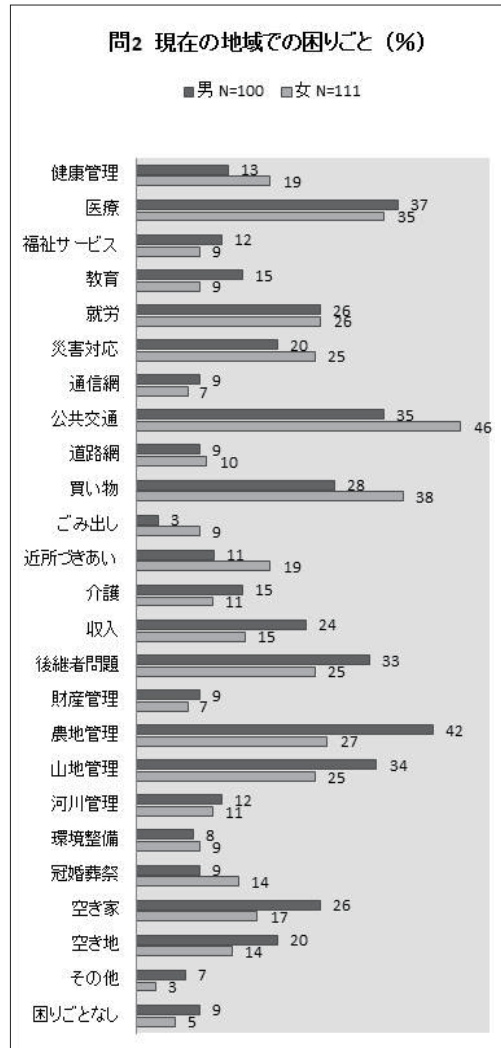


図6 地域の困りごと (男女別)

(3) 地域への移住者、地域への短期訪問者の受け入れ態勢の整備

新住民の受け入れについては64%の人が活性化につながると考えている。それに対し、日帰り・短期滞在の旅行者の受け入れについては、地域の活性化につながると考えている人が49%にとどまり、逆に、日帰り・短期滞在の旅行者は地域活性化にはつながらないという考えが16%を占める。

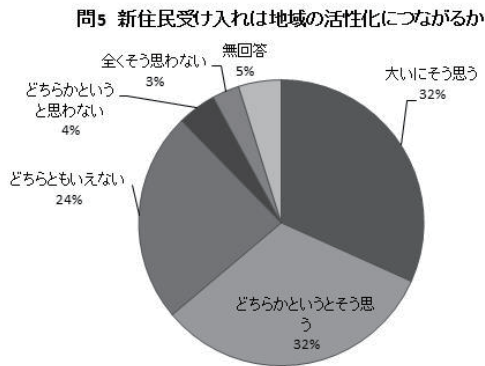


図7 新住民の受け入れと活性化

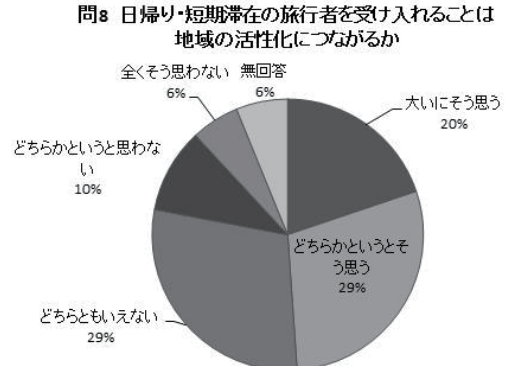


図8 短期滞在者の受け入れと活性化

日帰り・短期滞在の旅行者を受け入れる仕組みとしては、宇津峡公園（キャンプ、オートキャンプ、鮎つかみ、ラフティングなど）、栃本河川公園（キャンプ）、上桂川河川域（川遊び）などがあるが、「バーベキューの匂いのごみだけを残して地域とは何も関わらずに帰っていく人がほとんどで、地域にはメリットがない」⁹という指摘や、「栃本河川公園は無料のキャンプ場になっていて、トイレやごみの掃除は栃本集落にまかされているが、利用者のマナーが悪く、栃本にとってはむしろマイナスになっている面もある」¹⁰との意見もある。

宇津地域外の訪問者あるいは移住を希望する人たちにとって、上記以外にも虫や地域の祭りなど、魅力的な資源は他に数多くあるが、マナーの徹底も含め受け入れ態勢の整備が課題である。

6. 課題解決に向けての展望

ここで抽出した課題について宇津自治会の役員と共有したが、確かに地域の現状を反映しているとのことであった¹¹。

これらの課題の解決はむろん容易ではない。しかしながら、宇津地域の未来のことを地域とともに考えていくうえで、今回抽出されたこれらの課題は明確な指針になる。

今後も宇津自治会との連携を核とし、地域でのイベントの企画・運営¹²やアクションリサーチを通じて、地域課題の解決に向けて着実に成果を積み重ねていきたい。

【謝辞】

今回のアンケート調査実施に際しては、宇津自治会の全面的な協力を得た。また、アンケート調査項目については、佛光大学の的場信樹先生、長光太志先生、奈良女子大学の藤平眞紀子

先生に助言をいただいた。宇津地域の住民の方々には忙しい中アンケートに協力していただいた。全ての方々に、この場を借りて心からの感謝の意を表したい。

[引用参考文献等]

京北町（2005）、『京北町五十年誌』

京都精華大学京北宇津宝さがし会 <http://seika-keihoku.com/>

京都市統計ポータル 町別人口

<https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/index.html#chobetu>

大学コンソーシアム京都 平成 28 年度学まちコラボ事業 学まち NEWS

<http://www.consortium.or.jp/chiiki/15781>

注

- 1 京都精華大学京北宇津宝さがし会 <http://seika-keihoku.com/> 2016.9.29 最終アクセス
- 2 大学コンソーシアム京都 学まちコラボ
<http://www.consortium.or.jp/project/chiiki/gakumachi> 2016.9.29 最終アクセス
- 3 京北町（2005）、『京北町五十年誌』、P111
- 4 京都市統計ポータル 町別人口
<https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/index.html#chobetu> 2016.9.29 最終アクセス
- 5 京北町（2005）、『京北町五十年誌』、P117
- 6 京北町（2005）、『京北町五十年誌』、P141
- 7 宇津在住 Sh 氏へのヒアリング（2015 年 10 月）より。
- 8 宇津在住 M 氏へのヒアリング（2014 年 5 月）より。
- 9 宇津在住 M 氏へのヒアリング（2013 年 8 月）より。
- 10 宇津在住 Sa 氏へのヒアリング（2016 年 2 月）より。
- 11 宇津自治会でのアンケート説明会（2016 年 2 月）にて。
- 12 大学コンソーシアム京都 平成 28 年度学まちコラボ事業 学まち NEWS
<http://www.consortium.or.jp/chiiki/15781> 2016.9.29 最終アクセス